

令和3年11月8日

令和3年度 ヨネスコスクール NISHITA 校内研通信 No. 3

研究推進部 研究主任 佐々木

5年生 国語科「資料を用いた文章の効果を考え、それを生かして書こう」

—グラフや表を用いて書こう—

5年全学級

◆本時について

環境問題とこれからの未来の在り方について自分の考えに合う資料を探すために、統計資料の読み取り方を理解する。

◆協議会での意見 授業を振り返る視点

1. 分科会提案 5年分科会

国語「グラフや表を用いて書こう」 説明文「固有種が教えてくれること」に続く単元。総合との関連を図り、環境に関するデータを読み取る。資料は5年担任が用意したが、自分で資料を用意した児童もいる。

2. 授業者自評

ICTの活用により、情報共有が活発にできた。支援が必要な児童も、今までの学習を生かし、自分なりの考えを、自信をもって述べることができた。変化が読み取れる資料だけでなく、イラストメインの資料も用意した。「もっと詳しい資料がほしい」という声を期待したが、そこまで深く読むことは難しかった。

3. 協議会より

- ICT 引き伸ばしすぎると目盛りが見えなくなり、読み取りが難しくなる
- ICTの活用で資料の細部まで見ることができた
- 果たしてそれが本当にエコなのかという問い直しが必要。 ・1%減った→実際はどのくらいの量？
- 資料の読み取りが難しいものもあった ・資料の読み取りの正確さをどこまで求めるか
- 資料の読み取りの指導（導入）がしっかりしていて、資料と向き合う時間も多かった
- 「～だから…だ」と理由を付けて話していた ・事実と考えを区別して話せるとより良い
- 本来は個人で進めていく単元、どの子も自分なりの考えをもち、話し合いに全員が参加できていたのが良かった
- 話し合いで友達に突っ込まれることで、より深く資料を読み直す、資料の新たな面に気付くなどがあった
- 話し合いをする中で自分の考えが揺らぐ子もいたが、最終的に「エコな社会になっているか」に戻って考えることで、まとめることができた
- 国語と総合のバランス◎ ・自分事にする工夫が必要！ 自分の家では？

【講師の先生より】

先生が子供の様子をよく見て回り、最低限の支援にとどめていたため、児童の活動が充実していた。

「振り返り」は何のためにするのか。手を挙げて発言するのが「振り返り」なのか。

- 個人の振り返りをポートフォリオにしてまとめ、自分の学びを振り返る手だてにするべき。主体的に取り組むことにつながる。振り返りは問いを投げかけ文章で書かせる。
- 自己評価の必要性。自分はどうなったの？と自分に問う。主体性に結び付いていく。eポートフォリオを小中高で持ち上げる仕組み。ロイロノートで各学年の学びを俯瞰する。紙ベースではできない音声や動画などの資料を残すことができる。
- ESDは小学校段階できちんと教えるのは難しい。しかし、小学校段階で視野を広げさせたり、様々な活動をさせたりすることは、中高の学習につながっていく。中高は教科によってしぼりがあったり、担当の先生が違ったりする。小学校の利点を生かしてESDを進めていく必要がある。小中学校では、持続可能な社会をつくる価値観や意欲、探究する力の育成を図る。

【研究主任より】

5年生全学級での授業公開、ありがとうございました。校長の朝会講話でもありましたが、ここまで子供たちが培ってきた力が集約された授業であったと感じます。本校ではESDで育成を目指す資質・能力、価値観を発達段階で整理し、共通理解を図っています。先の見えないこれからの時代に向けて、自己評価を通して子供自身が自己の変容を把握し、次の目標を設定し学びを深めていくことはこれから求められていく力だと考えます。従来型の知識・技能や体験のみで終わる学習を超えて、「どんな力を付けたいのか」という問いのもと、持続可能な社会をつくる価値観や意欲、探究する力の育成を中心とした教育活動を実践していきましょう。